

NEWS RELEASE

SHOKO CHUKIN BANK



人を思う。未来を思う。

商工中金

2021年2月5日

商工中金

正確で強力な照射が可能な超小型がん治療装置を開発する 株式会社ビードットメディカル様を金融面からサポート

商工中金は、事業性の判断が難しく、収益化に時間を要する分野に取り組む創業間もない中小企業の皆さまを、関係機関と連携しながら、積極的にサポートしています。

商工中金（深川支店）は、株式会社ビードットメディカル様（本社：東京都江戸川区、代表者：古川 卓司様）に対し、超小型陽子線がん治療装置の開発に必要な資金として、2億円を融資しました。なお、本件は、同社にとって初の借入金による資金調達であり、内1億円については、期間10年期限一括償還型の資本性劣後ローンを適用、民間の金融機関等と協調して同社の財務体質強化にも寄与しています。

同社は、陽子線がん治療装置の開発業者です。国立研究開発法人の一部門である放射線医学総合研究所の研究者が立ち上げたベンチャー企業で、2020年2月のJapan Venture Awards 2020にて『中小機構理事長賞』を受賞しています。

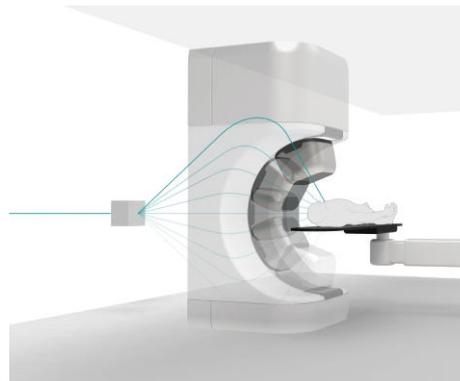
同社が開発する超小型陽子線がん治療装置は、X線を使った従来の放射線治療と違い、照射したエネルギーの大部分を腫瘍にのみ照射するもので、入院や手術を伴わず患者の副作用を減らすことができる先進医療です。また、陽子ビームの照射構造を独自に開発し、従来必要とされた専用建物等が不要となり、治療装置の小型化とともに低価格化を実現しています。

商工中金は、同社開発の陽子線治療装置の独自性や技術力、計画の実現性などを分析するとともに、導入を検討する医療機関や外部の専門家へのヒアリングを通じた事業性評価を実施。同社の取組みが、患者の身体的な負担だけでなく、高度な医療を提供する病院等の負担軽減にも貢献すると考え、同社に対して「経営者保証に関するガイドライン」に基づき、無保証にて必要な資金を融資しました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大による業績への影響や、「株式の希薄化」という資金調達・財務戦略上の課題を解決するため、融資の一部を期限一括償還かつ資本増強効果がある資本性劣後ローンにてサポートしました。

商工中金は、創業ステージにある中小企業の皆さまの支援を通じ、経済の発展に貢献してまいります。

【株式会社ビードットメディカル様の概要】

所在地	東京都江戸川区春江町5-10-10
代表者	古川 卓司様
資本金	7億1,000万円(資本準備金含む)
従業員数	28名(2021年1月現在)
設立	2017年3月
業種	放射線治療機器製造業



【同社が開発中の超小型陽子線がん治療装置】